

医療事業シンポジウム 2017.6 in TOKYO

(医療ユーザを獲得するための営業手法を考える)

情報提供

「医療現場が求める ICTソリューションとは」



【IOC本庄早稲田】

2017年6月22日

 MiMコンサル株式会社

医療ICT化支援室
医業経営コンサルタント
中嶋吉男

経歴・専門・社会貢献

<職歴>

- ◎ラジエンスウエア株式会社 代表取締役
- ◎ MiMコンサル株式会社 代表取締役

<研究経歴>

- ◎医療情報セキュリティ研究会 早稲田大学大学院 中里研究室
- ◎千年カルテ(EHR)構築共同研究 京都大学大学院 医学研究科
- ◎緊急時画像配信構築共同研究 山梨大学附属病院

<専門>

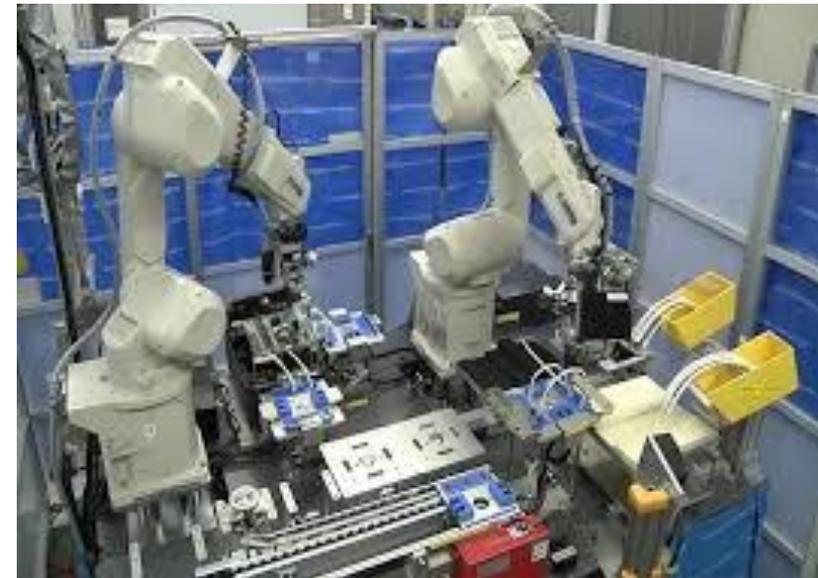
- ◎院内ICT化コンサルタント、ICT活用とスタッフ育成

<社会貢献>

- ◎公益社団法人 日本医業経営コンサルタント協会 埼玉県支部 理事
- ◎非営利活動法人 日本openEHR協会 理事
- ◎ミラサポ専門家 経営管理、事業計画、ICT化、スタッフ育成

＜大学卒業後25年間＞

自動化ロボット
(電子機器、検査装置)



半導体
(精密位置決め・高速動作)
(画像解析)



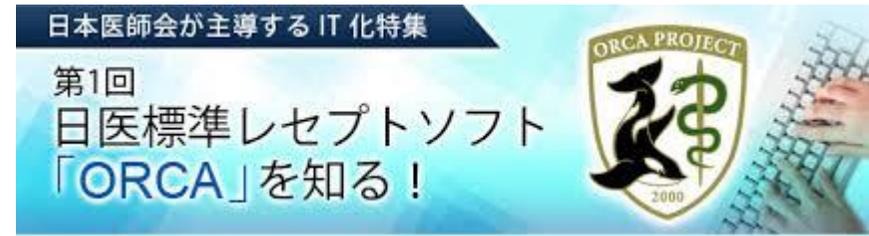
遺伝子解析
(センシング、データ解析)



<1997年>

医師会、情報担当理事との出会い ⇒ 医療業界に入る

- ・ORCAプロジェクト
- ・医師会関連事業



ラジエンスウェア株式会社 2000年設立（18年目）

- ・ITアナログ集団
- ・最高のサービス
- ・システム導入、サポート
（350件）



企業理念
ITアナログ集団

私たちは、最新の情報技術と人間の優れた能力の調和を図り、医療現場に安心とぬくもりの充実を提供するITアナログ集団を目指します。

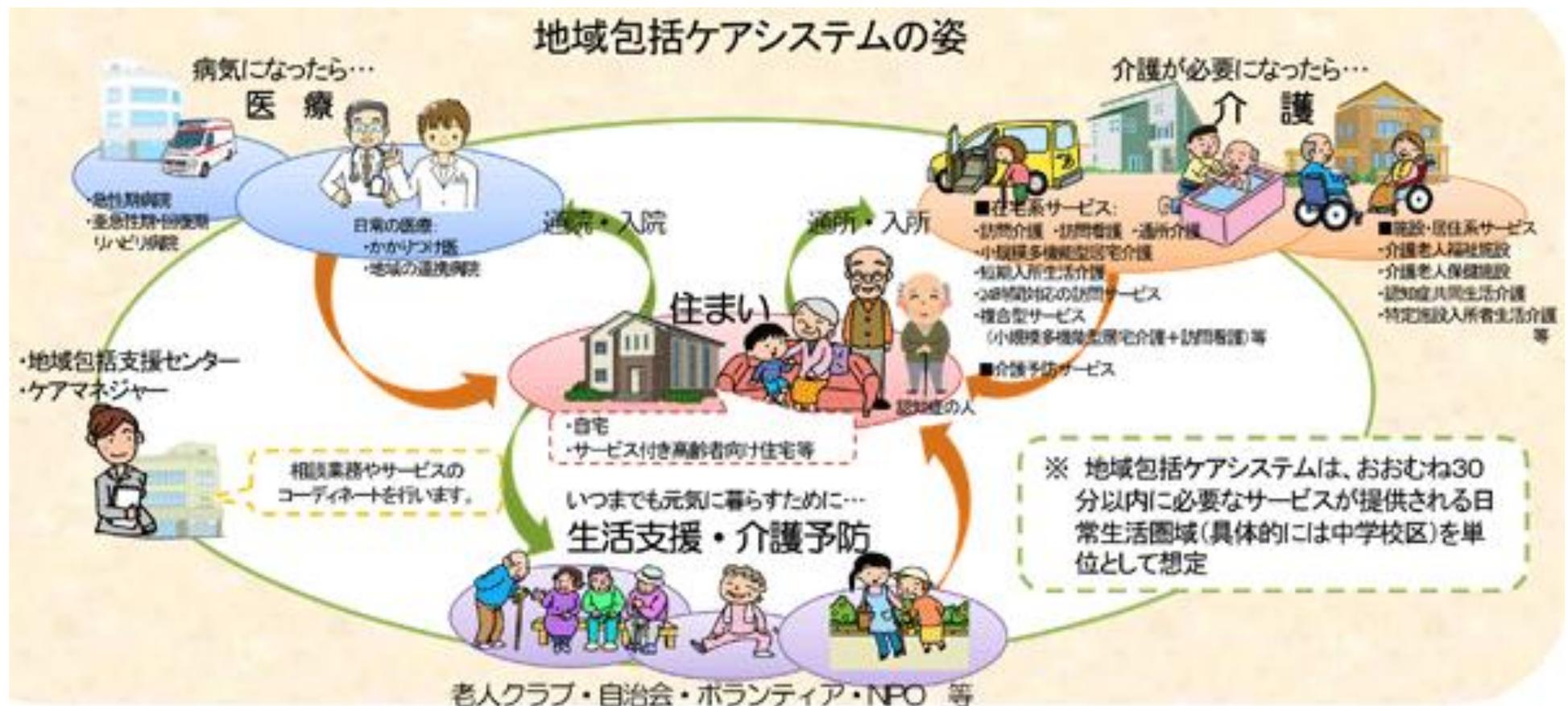
MiMコンサル株式会社 2014年設立（4年目）

- ・医療スタッフの負担軽減
- ・良質な医療提供の充実を支援



<国の方針>

- ① 2020年を目処に医療現場のICT化を促進させる。
- ② 処方や検査の重複を避ける。⇒ 患者の負担軽減、財政
- ③ 地域包括ケアシステムの実現 ⇒ 入院(医療)から在宅(介護)へ
- ④ ビッグデータの収集 ⇒ 二次利用、研究



ビジョン (向かうべき頂上?)



医業経営コンサルタント 西山信之氏 より

Vision(ありたい姿、定義)【目標】・気づき・共感

System(推進する仕組)【体制】・確信・合意

Action(意図的な行為)【改善】・行動・実践

Check(評価・分析・熟考)【管理】・観える化・検証

ビジョンを探す

＜医療現場はどうあるべきか＞

- ◎良質な医療を安定的に提供する
- ◎どんな状況でも最善を尽くす



医師、看護師、スタッフが心身ともに健康で生き生きしている



＜医療従事者の負担を軽減させるには＞

- ① ムダ、ムラ、作業をなくす
- ② 代替りの効く作業はシェアできる仕組み
- ③ 標準化された作業の流れが確立している
- ④ リフレッシュできる環境が整っている
- ⑤ コンピュータの得意な部分は任せる

心身のメンテナンス



ICT化の役割は大きい

<理想的なICTソリューションとは>

- ① 診療を邪魔しない
- ② 診療を支援してくれる
- ③ うっかりミスを防いでくれる
- ④ どんなシステムとでもうまく連携してくれる

頼れる相棒



自分を理解し気配りが隅々まで行き渡っている

<具体的には>

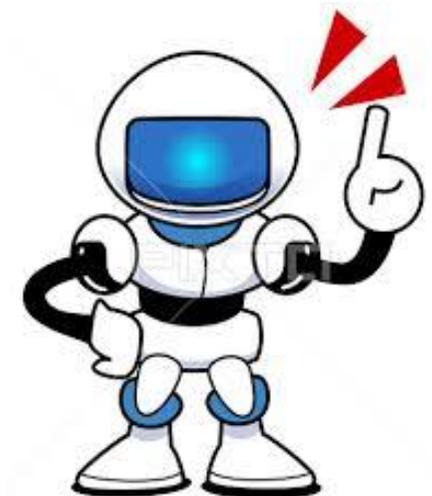
AI (artificial intelligence)



mIA (medical intelligence assistant)

- ① 必要な情報を全て持っている
- ② 優先順位の高いものから知らせる
- ③ ミスの可能性を未然に知らせる
- ④ 他部門とのコミュニケーションを助ける

頼れる相棒



音声やジェスチャーで操作や記録ができる

標準化
プラットフォーム

+



標準化DB
(ISO13606)

患者サービスの充実

自分や家族の健康に関する情報を知る権利

現状は

- ◎ 情報開示をほとんどされていない
- ◎ 自分の診療履歴が整理されていない



- ① 医療情報を一元管理する
- ② 患者にも現実を担ってもらう
- ③ 医療機関側のリスク回避

患者の納得・需要につながる



標準化DB
(ISO13606)

便利ツール

処方歴

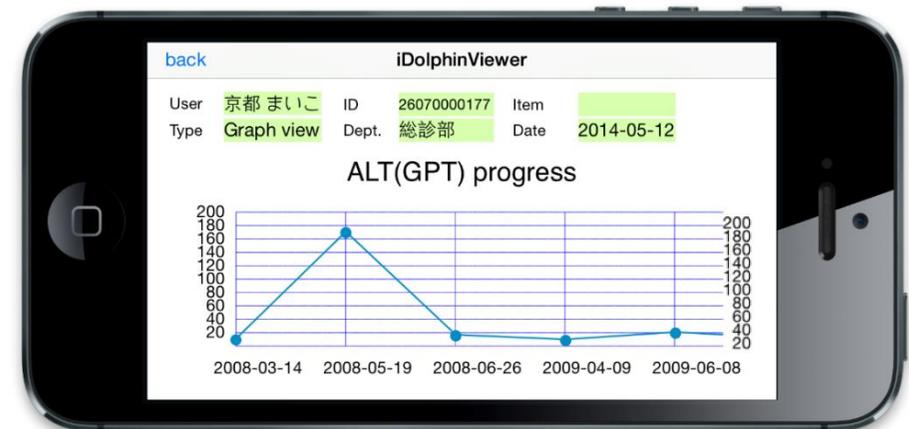


検査結果



- ① お薬手帳が不要
- ② 薬の飲み忘れ防止
- ③ 健康改善の意欲増進
- ④ 家族の支援が容易に

検査結果(グラフ)



自分の体の状態をいつでも確認できる

<海外では>

米国で始まった(OOPEN NOTES)というプロジェクト

患者がオンラインで自分の医療情報にアクセスできるポータルサイト

- ◎ 医師に会う前に、検査結果をオンライン上で確認できる
- ◎ 医師がカルテを更新するとそのお知らせが患者に届く
- ◎ 患者は医療者に質問を送ることのできる

参加した医師は150人、患者は2万人

- ◎ 参加した患者の99%がプロジェクトの継続を望む
- ◎ 8割の患者が主体的に自分の治療に関われるようになった
- ◎ 6割以上の患者が、以前よりも処方通りに薬を飲むようになった

現代ビジネス

日本人がカルテのすべてを見る日～医師と患者の関係は・・・

<http://gendai.ismedia.jp/articles/-/51627>

磯野 真穂
文化人類学者
国際医療福祉大学大学院講師



(磯野先生の報告)

理想的なヘルス・ケア・システムを議論

テーマ 「私なしに私のことは存在しない」

診察は録音あるいは録画されており、
オンラインでいつでも振り返ることが可能



オーストリア、ザルツブルグ

患者は、医師が立てた治療計画や診察時の所見を確認し、意見や修正があれば書き込んだり、次の診察に向けた自分の病気についての学習をネット上に用意された教材で行ったりすることもできる。

< 診療情報は誰のものか >

システムメーカーのものではない！

「患者のもの？」 or 「医師のもの？」 or 「病院のもの？」 or 「研究者のもの？」
or 「社会のもの？」 or 「国のもの？」 or 「人類のもの？」 or 「未来のもの？」

「情報内容により異なる」 → 議論する時期に来ている

世界卓球2017(ドイツ)から見る 日本人の特徴



金



銀



銅



銅



銅

今回の世界卓球では5個のメダルの内4つがダブルスでした。卓球のダブルスはテニスやバドミントンと違い、必ず交互に打ちます。特に金を取ったミックスダブルは男女が交互に打つので非常に複雑な戦いになります。中国やヨーロッパの体が大きい強豪を打ち破って金を取るには、2人が試合前から入念な準備と歯車が噛み合う技術を磨いてきました。

この結果をみても分かるように、われわれ日本人は、お互いに連携しあえば、どんな厳しい局面も打開できる人間力をもった国民だと言えます。

今から知恵を出し合い、ICTによる連携で、超少子高齢化社会を乗り切りましょう

ご清聴ありがとうございました。

